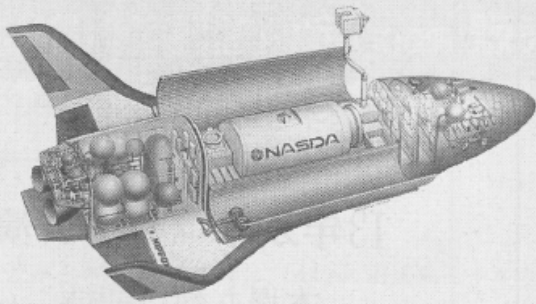


土曜 プラザ

毛利さん
あす帰還

日本の宇宙開発へ大きな一歩



日本人初のスペースシャトル飛行士となった毛利
衛さん(四四)は、あす二十日午後八時十九分(日本時
間)、地球に帰還する。八日間の宇宙飛行では、多
くの実験が繰り返された。その実績は今後、日本独
自の宇宙開発へとつながって行く。これまでSF映
画やアニメ世界の夢物語に過ぎなかった宇宙は、毛
利さんのおかげで現実味を帯びてきた。近未来を展
望する。
(松本慶治)

日本が進める当面の目標 っている。全長十八メートル、幅
は、日本版スペースシャトル、高さ三・五メートル、総
重量二十トンの開発中の純国
産大型H2ロケットが宇宙
へと運ぶ。任務はアメリカ
が主体となって建設する宇
宙ステーション「フリーダ
ム」への物資補給。
「計画が順調に行けばホ
ーブ二機で二年二回の宇宙飛
行を予定しています。十年間
続ける計画です」
宇宙開発事業団ホープ推
進

夢ではないSF世界

進室の話だ。

「ホープ」に次ぐ第二弾
は、有人宇宙往還機「スベ
ースプレーン」計画。地上
と宇宙ステーションを旅客
機のように飛ぶはずだ。特
別な訓練など必要なく、だ
れでも宇宙旅行ができると



研究者の科学技術庁航空
宇宙技術研究所の工学博
士、舞田正孝さん(四三)写
真は「宇宙への憧れを実
現するのがスペースプレー
ンです。今のスペースス
シャトルは、二〇一〇年の引

まずは「日の丸シャトル」から

退が決まっています。です
という。現在、東京一ワシ
から、プレーン計画は、そ
れまでに実用化の宿命もあ
るんです」と、単なる夢追
い話ではないことを強調す
る。
舞田さんによると、現在
の宇宙開発は転換期に来て
いるという。
「冷戦時代、各国は自
己の権威のために競争してき
てきた。が、これからは関
係国による国際協力の時代
です。コストの上昇、予算
の制約などで、もはや一国
で開発できる状況ではあり
ません」
スペースプレーンが実用
化されれば、宇宙開発に一
段と弾みがつく。
「宇宙ステーションから
月への行き来が容易にな
り、火星や他の惑星へ旅行
することも可能になるかも
しれません」(舞田さん)
スペースプレーンは極超
音速旅客機にも応用できる
ではない。

そうは言っても、実現ま
では解決すべき問題も多
い。日米欧の共同開発とな
るだけに、研究に当たって
の合意形成や特別なエンジ
ンの設計、予算の裏付けな
どが必要だ。航空宇宙技術
研究所では来年、エンジン
開発の第一歩として、サブ
スケール(小型版)の試作
を始める。
舞田さんは「技術者のエ
ゴですけれど、スペースス
プレーンには、絶対私が最初
に乗ります」と本気で話
す。宇宙少年であった科学
者の夢は毛利さんと同じ
ようだ。その「夢」が現実
になるの、さほど遠い話
ではない。

土曜
プラザ